

熱帯低気圧と台風の違いをご存じでしょうか。

中心付近の最大風速によって呼び名が変わり、一定の基準を超えれば「台風」、それに満たない場合は「熱帯低気圧」と呼ばれます。

先日、鹿児島県に上陸した台風は、発生からわずか八時間後に上陸し、大雨による被害とともに「いきなり台風」と報じられました。低気圧と台風とでは、報道の扱いが大きく異なります。その日の朝は、まだ「低気圧」であったためか警戒を強く呼びかける報道は少なく、結果として、多くの人々が普段通り出勤しました。子どもたちも同様で、保育所に通った園児や、ちょうど夏休みの出校日であった小学生は、警戒の薄いまま台風の直撃を受けることになりました。

私たちは、物事を数によって判断することが多くあります。被害の規模も、被害者数や世帯数によって表すことで、正確に把握し、伝え、分析することができます。また、呼び名によって印象が大きく変わることも少なくありません。

しかし、数によって見えるもの、呼び名によって表されるものが、すべてとは限りません。数による線引きや名称の違いに頼りきって物事を捉えようとする私達の「ものさし」を問い直すことも大切なのではないでしょうか。

